

# 変貌を遂げる幸区

## 1972~



東芝細川町工場跡地の様子。後にラゾーナ川崎プラザが建設された。奥に連なっている団地群は河原町団地。【提供】野口地男氏

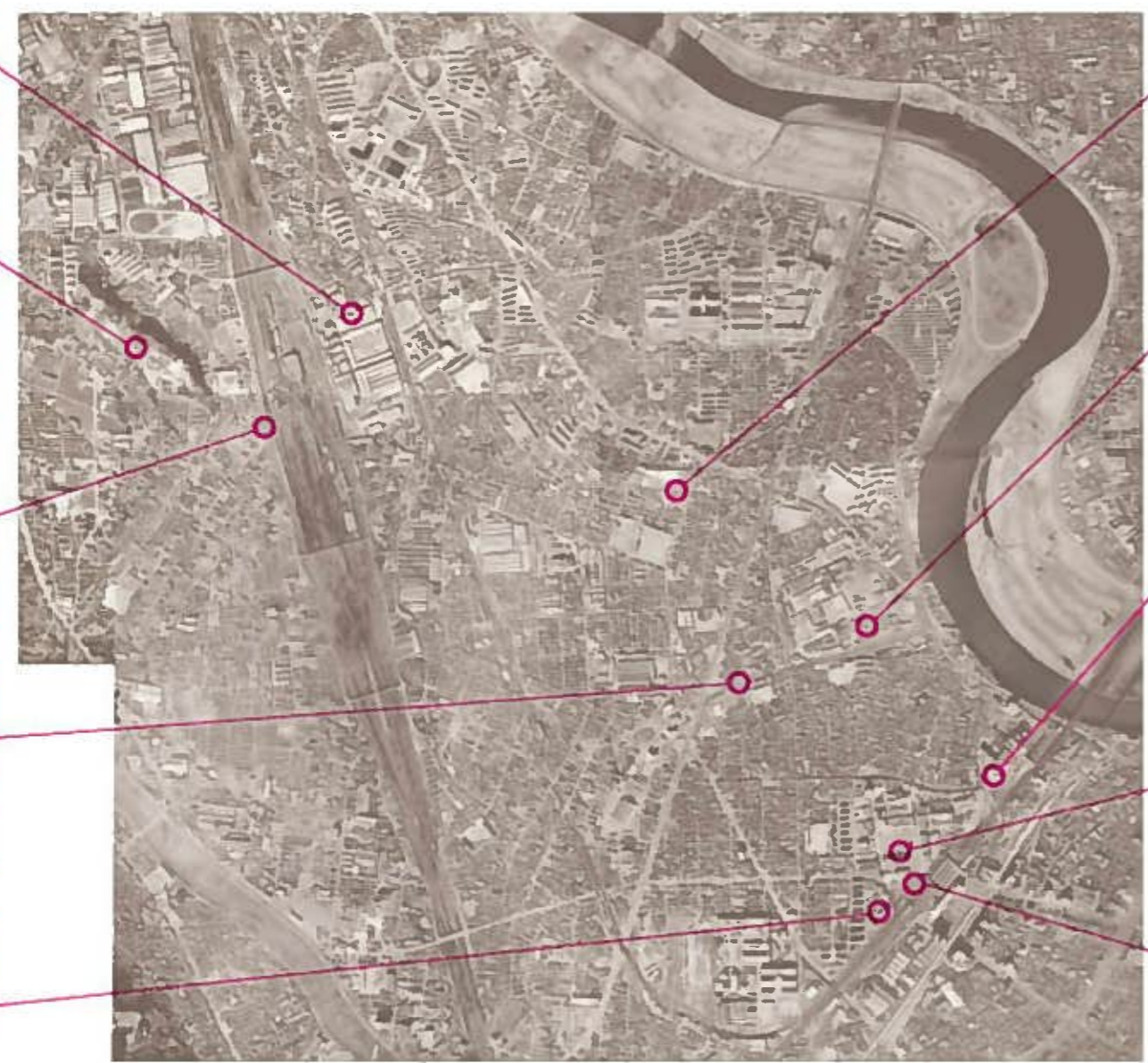
幸区が誕生して以降、徐々に街並みは近代的なものへと変わっていき、21世紀に入るとその様相は大きな変貌を遂げていくことになりました。

### 【現在の街並みへ】

昭和47（1972）年4月1日、川崎市の政令指定都市移行に伴って、幸区が誕生しました。そのころから徐々に、街並みも変わっていくことになりました。

今ある建物などの多くは、このころからで始めたんですか？  
 そうです。幸区誕生と同じころ、市営河原町住宅の一部が完成しました。11月には加瀬山に夢見ヶ崎動物公園が開園しています。昭和50（1975）年には、戸手浄水場の跡地に幸区役所が落成しています。

夢見ヶ崎動物公園はそんなに前からあったんですね！



1965年の幸区全域の街並み（航空写真）と、現在の各スポットの対比  
 【出典】昭和40年度 川崎市空中写真測量成果（縮小写真）  
 ※川崎市の承認を得て同市発行の空中写真を使用したものです。承認番号（川崎市指令第180号）



明治後期ごろから、長く工業都市として栄えてきた幸区は、社会情勢や経済活動などの変化によって、高層住宅・大型複合施設の建設や教育・研究機関の進出など、新たな表情を見せ始めています。

時々歴史を振り返りながら、これからの幸区は一体どのようになっていくのか、考えてみたら楽しいかもしれませんよ！

インパクトがありますね。

朝、スーツ姿のサラリーマンが大勢あそこに向かってますね。明治製菓時代も、似たような状況をよく見ましたよ。そして、平成14（2002）年には大宮町旧国鉄跡地にミューザ川崎が開業され、平成20（2008）年に東芝堀川町工場跡地に、川崎駅西口と一体の開発として、大型商業施設であるラゾーナ川崎プラザが完成したことで、まちの表情は一変しました。

工場跡地が徐々にマンションや商業施設などが建設されていくにつれ、「工業のまち」から「住むまち」へと変貌を遂げていったのが、現在の幸区なんですね。

当時も大人気でしたよ。また、憩いの場づくりとして、昭和51（1976）年、川崎河岸線跡地に、さいわい緑道ができました。

川崎河岸線がなくなったのは、もともと昔だと思っていました。イベントにも目を向けると、第1回幸区民祭が行われたのは、昭和56（1981）年のことです。

いつも大勢の方が集まっています、とても賑やかですよ！

鹿島田駅周辺については、昭和63（1988）年に日立製作所跡地にできた、職住近接のパークシティ新川崎や、平成7（1995）年に閉鎖した東芝タンガロイ跡地のサウザンドシティなど、開発によりだいぶ様変わりしました。新鶴見操車場跡地にも、マンション群や、平成12（2000）年、研究施設などを備えた慶應義塾大学K（ケイスクエア）タウンキャンパスが誕生し、有効活用されています。

そうですね！鹿島田駅の周辺も高い建物がいっぱい！

工場跡地の開発は他にも色々行われました。平成7（1995）年、明治製菓川崎工場跡地に建てられたソリッドスクエアは、かなりイ

# 3 世代別にみた さいわい

世代の異なる区民の方々が、それぞれ幸区に  
どのような想いを持っているのかを知るために、たくさんの方に

「子どものころに地元にあった宝物」や  
「子どものころの思い出」などのお話を伺いました。

世代別の意見は、町内会・自治会をはじめとする皆さまに  
アンケートで調査したり、秋の動物園まつりや幸区民祭の  
イベントでお聞きしたりしました。

また、イベントでアンケートにお答えいただいた方々と  
茶話会を行い、さまざまな意見を伺いました。  
これらで集めた意見を整理して、各世代の代表意見として紹介しています。

はたして、それぞれの世代から見た“幸区”には、  
どのような違いがあるのでしょうか。



図書館の  
郷土史コーナー  
で閲覧可！  
もっと知りたくなったら...  
おすすめ図書を紹介

もし幸区の歴史についてもっと勉強したくなったら、  
これらの本を読んでみるといいですよ！

## 「わがまち さいわい物語」



幸区制30周年記念誌。  
区民からのインタビュー  
情報をもとに主に大正か  
ら昭和にかけて、南河原・  
御幸・日吉の3つの地区  
それぞれの歴史を振り返  
ります。

※地域振興課でも閲覧可能です。

## 「さいわい歴史ガイドマップ」



幸区まちづくり推進委員  
会が作成した、幸区全域の  
歴史資源が掲載されたガ  
イドマップです。各資源  
の解説や、道標を巡る  
散策コースも掲載、ま  
ち歩き派の方に特に  
オススメです。

※地域振興課などで配布しています。

## 「川崎 幸区地誌」



地域性、歴史、統計な  
ど、色々な切り口から  
幸区を紹介する書籍  
です。2000年刊行と少  
々古い情報ではある  
ものの、今も読み  
応え十分の内容です。

## 「川崎市史」



川崎市が発行した川  
崎の歴史について専  
門の学者が執筆した  
本。通史編・資料編  
から成っています。  
川崎の歴史を知る  
上で、欠かせない  
本です。

## 「新編武蔵風土記稿」(平成に復刻)



江戸幕府により編  
集された武蔵国の地  
誌で、武蔵国の沿革  
や、各村の民俗的  
資料を網羅してい  
ます。幸区域の村  
々についても当然  
掲載されています。

## 「さいわい歴史副読本Ⅲ」(I・Ⅱもあり)



幸区内の歴史愛好  
者が集まって作る  
「さいわい歴史の  
会」編集。区内に  
残る石造物に刻ま  
れた事項を読み、  
編集し、学校の郷  
土学習に供そうと  
作成した本です。



2 さいわいの今

## 世代を超えて多くの意見が寄せられた 子どものころのさいわいの宝物

幸区に住むさまざまな方から、「子どものころに地元にあった宝物」として、記憶に残る風景・まちの歴史を伝える遺産・大切にしたい場所などを教えてもらいました。

世代を超えて意見が寄せられた宝物についてご紹介します。

### 多摩川

幅広い世代から多摩川の話が寄せられました。世代ごとにどのような感じ方の違いがあるのでしょうか？

**30代** 幸区の宝物といえば多摩川です。幸区の河川敷では、ダンボールで草の上を滑り降りる遊びや水遊びをして楽しみました。

**70代～** 昔は多摩川でよく泳いだものです。学校から帰ると、いつも多摩川で遊びました。大きなシジミが採れてね、食料の少ない時代だったから、家族にもずいぶん喜ばれましたよ。ザリガニ捕り、つくしやレンゲ採りなど、思い出が詰まった人生の宝物のような場所です。

**50代** 先輩方からは、多摩川で泳いだ話をよく聞きました。私たちの世代から見ると多摩川は、幼いころはきれいでしたが、小学生になるころには汚れ始め、イメージがガラリと変わった印象があります。

**70代～** そうでした。だんだん川に油やゴミが浮き始めました。手がかき分けて泳いでいたので、平泳ぎが得意になりましたね(笑)。

**20代** その後、上下水道が整備されて、

多摩川も徐々にきれいになったんですね。学校で勉強しました。

**50代** 川が汚れていたとは言いたければ、親と一緒にお弁当を持って遊びに行ったり、夏には花火を見たり、楽しい思い出たくさんあったわね。

**70代～** 自分が子どものころはもちろん、大人になり結婚して子どもが生まれてからも、子どもを連れて河原に行つて遊びましたよ。

**30代** 多摩川は今でも憩いの場所になっていきますよ。

### 加瀬山・夢見ヶ崎動物公園

加瀬山は、若い方からは動物の話、年配の方からは自然や歴史の話が聞かれました。

**20代** 僕にとつての幸区の宝物は、やはり夢見ヶ崎動物公園です！小さなころに、親とよく遊びに行きました。動物を見たり、広場で遊んだり、無料だから、いつでも行きたい時に行ける場所でした。

**50代** 加瀬山は、幸区の中で一番自然を感じられる場所ですね。桜もきれいだし、見晴らしがいいですね。

**30代** 私は最近、よく子どもを連れて遊びに行きます。うちの子は、ペンギンが大好きなんです。

**70代～** それから、思い出話としては、私が子どものころに、初めて友達だけでバスに乗って、ドキドキしながら夢見ヶ崎動物公園に遊びに行ったことを今でもはっきりと覚えています。

**70代～** 太田道灌が江戸城を建てたために加瀬山からの眺めを確かめた伝説があるように、昔は大きな建物がなく見晴らしが良かったです。歴史的遺産のある場所から動物公園へと、楽しい公園になったと思います。昔の幸の面影が残っていると感じる、数少ないところでもあるので、残していきたい場所だと思います。

### 南河原公園

南河原公園については、年配の方からは公園ができる前の風景について、多くの意見が出されていました。

**20代** 公園といえば、南河原公園も好きなお場所でした。小さなころは築山でよく遊びましたよ。

**50代** 船の形をした遊具の「なかよしが丸」も自慢で、子どもたちが楽しそうに遊ぶ姿を見かけます。

**70代～** 今はお祭りといえば夏ですが、昔は10月ころに稲を収穫した後、お祭りをしていましたよ。北加瀬の秋の収穫祭では、近所の人たちが、その日ばかりはとも威勢よくみこしを担いで、付き合ひの悪い家に突っ込んでいったり激しいものでした。日ころから向こう三軒両隣の付き合ひが大事と子どもながらに感じました(笑)。

**20代** ええっ!? 昔のお祭りってそんなに過激だったんですか？

**70代～** そんなことはありません。若い方が少ないと聞きますね。

**30代** 新しくマンションに住み始めた方からは、お祭りに興味はあるけれど、氏神様が分からないし、参加するきっかけがないという話を聞きました。これから少しずつ参加の輪が広がっていくといいですね。

世代を超えて多くの方から出された子どものころの宝物は、場所だけではなくお祭りなどの行事もありました。また、どれもが、各世代の中でイキイキとした体験を通して心の中に刻みこまれた「ふるさとの風景」となっているようです。

**【多摩川の思い出】** 30代～70代から、子どものころに水遊びや釣りをした話が出されており、50代以上からは泳いだ話が出されていました。

**【加瀬山、夢見ヶ崎動物公園の思い出】** 20代～80代から、子どものころに遊んだ話、緑が豊かで自然とふれあえる話が出されていました。

**【南河原公園の思い出】** 20代からは築山で遊んだ話が、50代以下の世代からはなかよしが丸の話が出されていました。60代以上からは公園ができた当初の話、公園になる以前の風景やそこで遊んだ話が出されていました。

**【お祭りや夜店の思い出】** 20代未満～80代から、お祭りの話、ハッピーロードの夜店の話、女衾神社のお祭りの話などが出されていました。



70代男性



50代女性



30代女性



20代男性

アンケートより

**70代～** そういえば、公園ができた当時は、と心配する声もありましたね。でも今は、桜の木々もだいぶ大きくなり、とても良い雰囲気ですね。朝はラジオ体操をしている人がいたり、日中は親子連れが散歩したりしているのを見ると、本当に公園ができて良かったと思います。

**50代** ほかに、近くの中学校同士の場所だったなんて話を、ずいぶん前に聞いたことがあります(笑)。

**70代～** 昔、多摩川が蛇行していた名池がたくさんあったんですよ。

**20代** ええっ!? あの辺りは池だったんですか？

**50代** 昔は築山がなくて、池があったんですよ。

**30代** 私も、子どものころには伍ヶ丘やかくれんぼをして遊びまわった。背の高い木が多いので隠れるところがいっぱいあったなあ。それから、小学校のマラソンコースにもなっていました。とにかく、遊ぶといたらこの公園でした。

### お祭りや夜店

お祭りは、20代未満からも出されていました。それぞれの世代でどのような思い出があるのでしょうか？

**20代** 幸河原地区の夏のお祭りでは、いろいろなみこしが女衾神社に集まって楽しいんですよ。

**50代** 女衾神社のお祭りは、各町内会、自治会のみこしが集まるお祭りですよ。私が子どものころからずっと続いています。

**20代** お祭りでは夜店も楽しみの一つですね。今もあります。幸河原のハッピーロードでは、毎年夏になると、2がつく日(2日・12日・22日)に夜店が並び、楽しみでした。

**50代** 夜店は楽しかったですね。私が子どものころは、道路の両側にびっしりお店が並んでいて、食べ物だけでなく、ゲームなどもあり、にぎやかな雰囲気でした。

**30代** 大きなお祭りもいいですが、町内会ややるお祭りもいいものですよ。大人になってみると、そういうところで地域のつながりを感じられて、改めていいなと思います。

# 変わりゆく風景と遊び

時代とともに、変わりゆく風景があります。アンケートや茶話会では、今では見ることのできない、幸区の風景の話がたくさん寄せられました。また、そのような時代の移り変わりとともに、子どもたちの遊びも変化しているようです。

## 豊かな自然

昔の幸の風景はどんな感じだったのですか？

**40代** 私が子どものころは近所の原っぱを駆け回り、野草や虫を捕ったりして、自然が豊かでしたね。

**50代** 今は緑といえば、夢御幸公園などの公園が思い当たりますが、昔は家々の境が生垣だったり、緑が多かったです。それから、イナゴの捕れる田んぼ、メダカのある小川、セミ捕りのできる小さな森など、あちこちに自然がありました。

**60代** 昭和20年代、家の周辺には小さな沼と畑が至る所がありました。ギンヤンマが沼や畑を旋回していたけど、小さな子どもにとっては捕るのが大変でした。田んぼにはカエル、ライギヨがたくさんいました。今となっては、もう望めない豊かな自然環境でしたね。

## 水が多かった風景

50代以降の方から、用水路、小川、沼、池などの水辺の話が増えますね。

**50代** そうですね！水辺が近くにはたくさんあり、幸区は水の都だなと思いました。また、家の近くにもたくさん池があって、ザリガニ、カエルの生息地になっていました。家のそばには水路が流れていて、そこにはタニシ、イトミミズ、メダカがいたなあ。

**60代** 小倉用水は魚捕りや水遊びができ、美しい用水路でした。家の近くにも小さな沼や池が多くあり、魚、ザリガニ、おたまじゃくしを釣りましたね。

**70代～** やはり家の周りが池だらけでした（笑）。南河原公園ができる前の沼全体にはアシ類が密集して生えており、水鳥、フナ、ライギヨ、ヤゴ、ザリガニ、カエル、メダカ、ナマズ、トンボなどといった、たくさん生き物がいました。

## 遊びの今・むかし

アンケートや茶話会でも出された遊びや、遊び場について世代別に紹介します。

**20代未満** 小学校でサッカー、駐車場で遊び場は、こども文化センター、秘密基地など。



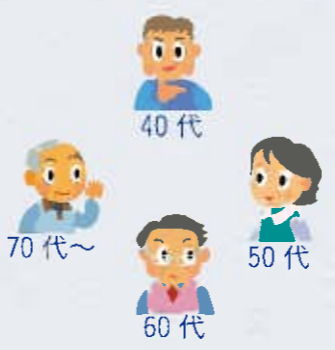
**20代** ゴム跳び、かくれんぼ、鬼ごっこ、ミニ4駆を走らせたことなど。遊び場は、熊野台公園、加瀬山、今は無くなった「こどももり山」、鹿島田広場、鹿島田神社、トンネル公園、南河原公園の築山など。

**30代** かくれんぼ、鬼ごっこ、駄菓子屋で買ったおもちゃ・メンコなどで遊んだこと、多摩川で段ボールで草の上を滑り落ちる遊びや

水遊び、南河原公園で自転車走り回ったこと、夢見ヶ崎動物公園の木の下でかくれんぼ、古市場第2公園のブランコで遊んだこと、二ヶ領用水の通り道、堤防を滑り台にして遊んだこと、使われていない倉庫や古い駐車場や山の河原で秘密基地をつくったことなど。

**40代** かくれんぼ、鬼ごっこ、虫捕り、竹馬、木登り、風揚げ、多摩川でアメリカザリガニ釣りなど。遊び場は、南河原公園と遊具「なかよし丸」、近所の空き地、原っぱ、鶴見川の土手、塚越第3公園、古市場公園など。スーパー赤札堂の上のボーリング場という話も。

**50代** 虫捕り、木登り、ザリガニ釣り、ドロケイ、缶ぼっくり、おし



## 工場、新鶴見操車場

開発で無くなりつつある工場や新鶴見操車場があったころはどうでしたか？

**60代** 私は日本鋼管から出る真っ赤な煙にびっくりした思い出があります。操車場は毎日多くの貨物車の入れ替えをされていて、活気がありました。反面、貨物車の切り離し音、汽笛の音、蒸気機関車の煙により洗濯物が汚れるという問題もあったようです。

**70代～** 昔あった、東芝柳町工場の敷地内の鉄塔に、機銃の銃痕があったのを覚えているよ。

**60代** 明治製菓や東芝の工場のある風景が印象的でした。大工場、町工場、関連企業などが一体となって経済成長をしていた時代だったと思います。お店も

多く活気がありましたね！

**40代** 子どものころ明治製菓からチョコプレートのおいがありました。

**60代** 明治製菓といえば、私の世代はビスケットのにおいでした。

**50代** 今はソリッドスクエアになりましたが、明治製菓の鉄塔があったという過去の記憶を残そうとプレートが設置されたんですよ。思い出としては、夜はナトリウム灯でライトアップされ、クリーム色の外壁に映えていたのを覚えています。レンガの凹凸で陰影が美しかったですね。

至る所に豊かな自然がある一方で、幸区には同時に、多くの工場が立地していました。そこには、遊ぶ人、働く人、住む人など、人々によるさまざまな暮らしがありました。

ろい花を拾ってつぶして遊んだ、南河原公園で野球など。遊び場は、変電所の周辺、田んぼ、小川、用水、水路、多摩川の自然、小さな森、社宅（今は公園）、塚越沼ノ上公園など。



ザリガニ捕りなど。遊び場は、多摩川、小倉用水、小川、沼、家の周りの池、雑木林、原っぱ、今の南河原公園の場所の近くにあってガラヌなどの廃材の山など。



**60代** 虫捕り、魚釣り、メンコ、ビー玉、ペーゴマで遊んだこと、小倉用水でカメを捕った、あちこちにある沼で潜水艦や船のプラモデルを浮かべた、小さな池でザリガニやおたまじゃくし捕りなど。遊び場は、多摩川、田んぼ、道路、防空壕など。

**70代～** 水泳、釣り、シジミ採り、ペーゴマ、メンコ、手づくりのコマ、竹とんぼ、風揚げ、おはじき、お手玉、ローラースケート、野球、鬼ごっこ、ほんち（クモ）をマツチ箱ぐらいの箱に入れて戦わせたこと、加瀬山で土器のかけらを集め、変電所内で

年配の方からは、豊かな自然の中でイキイキと遊んだ話が多く出されました。昔は使い終わった割り箸で輪ゴム鉄砲を作るなど遊びを考え出したそうです。ガキ大将がいて、子ども同士でケンカの加減も学び、そのけがも勲章だったという話が出されました。ペーゴマで負けると取られてしまうので、知恵をつけて、上級生の技を盗んだという話も出されました。遊びからたくさん学べる遊びがあることが感じられました。



**アンケートより** 【自然が豊かだった・緑が多かった思い出】40代以上から原っぱなどの思い出話が出されており、特に50代以上からは、田畑、小川など、地域にあった豊かな緑やそこの生き物の話が出されていました。【池、沼、小川、用水などが多かった風景の思い出】50代以上から水にまつわる風景の思い出話が出されていました。【工場の鉄塔のあった風景、生活の思い出】30代以上から東芝タンゴロイ、明治製菓、東芝などの工場のある風景の話が出されていました。【新鶴見操車場の思い出】30代以上から新鶴見操車場跡の話が出されていました。特に50代以上からは操車場であったころの活気がある話が出されており、中には騒音や煤煙により近隣の家庭が悩まされていた話も出されていました。

**【凡例】**

アンケートなどで寄せられた宝物のスポット

ご意見をいただいた方々の年代

- 10 20代未満 (主に10代)
- 20 20代
- 30 30代
- 40 40代
- 50 50代
- 60 60代
- 70 70代以上 (主に70代)

さまざまな世代の  
子どものころの宝物マップ

幸区に住むさまざまな方から、「子どものころに地元にあった宝物」として、記憶に残る風景・まちの歴史を伝える遺産・大切にしたい場所などを教えてもらいました。

**ニヶ領用水**

昔は水が綺麗で、洗い物に使うなど、生活の中でその水が活用されていた。雨のあと水が増えると、うなぎが採れた。

**夢見ヶ崎動物公園 / 加瀬山**

- 20 遊べるところが沢山あるし、秘密基地のようで楽しかった。
- 20 小さい頃よく遊んでいた。動物を見たり、広場で遊んだりした。
- 30 初めて子どもたちだけでバスに乗って、ドキドキしながら遊びに行ったことは、今でもはっきりと覚えています。
- 40 選抜は子どもにとって、ユーレイの出る肝試しスポット。
- 50 今はないが、険しい裏道を登って遊びにいった。
- 60 昔の面影がわずかに残っているのはここしかない。
- 60 防空壕があった。
- 70 小学校の帰りに加瀬山で矢じり、土器のかけらを集めた。

**新鶴見操車場**

- 40 広大なススキ野原に聞こえる虫の声、ヒバリのさえずりが懐かしい。
- 50 東洋一の規模を誇る鉄道ヤードであるから。
- 50 どこにでもあるものではなく、珍しいものだから。
- 60 汽笛を鳴らして走る貨物列車は忘れられません。
- 70 東洋一の操車場といわれていた。
- 70 多くの蒸気機関車・貨車に見とれていた。

**矢上川**

自然が多く、虫・魚・鳥などもたくさんいた。よくカメを捕まえるに行った。

**多摩川**

- 30 ダンボールで草の上を滑り落ちる遊びや、水遊びをして楽しんだ。
- 50 広く、自由に走り回れる。虫捕りができる。
- 50 子ども時分に親子でお弁当を持って行き、遊びました。今でもそこは憩いの場所になっていますね。
- 60 昔は多摩川でよく泳いだものです。
- 70 学校から帰ると、いつも多摩川で遊び、子どもが生まれると河原に連れて行き、遊んでいました。人生の宝物です。

**鹿島田幼稚園**

毎日の遊び場所であり、盆踊りやラジオ体操など、色んなイベントもあった。

**下平間小学校**

私が在学していた当時、新築になり、プールもできて嬉しかった。

**塚越の塚(古墳)**

歴史があるから。

**小倉用水(現・小倉緑道)**

- 60 魚釣り、水遊びができ、美しい用水だった。
- 70 毎日のように泳ぎに行った。
- 70 小倉用水や日吉地区一帯でホタル狩りができた。

**鶴見川**

子どものころは川幅が狭かった。川辺ではレンゲが咲いていたり、野球ができたりした。

**御幸公園**

- 50 明治天皇が行幸された。
- 70 梅林がきれいでした。いちじょうの大木があった。

**東芝科学館**

すごい技術があった！

**図書館**

大きく、本がそろっていて、いつも読みたい本がある。

**古川小学校**

サッカーをやっていた。

**さいわい緑道 / 引込み線**

毎日近所に蒸気機関車(SL)を見られた。

**池(現存せず)**

このあたりには、ザリガニ、カエルの生息地があった。

**尻手駅隣の池(現存せず)**

メダカが泳いでいた。ギンヤンマやイトトンボが来た。

**馬屋(現存せず)**

近所に馬屋があって、土を運んでいた。

**ラジオ日本の铁塔**

土手に行く度、目にしてた。

**小向厩舎横のニヶ領用水(現存せず)**

子どものころ、土手を歩いて遊んだ。

**遠藤町交差点**

ニヶ領用水が流れる石橋が架かっていた。

**河原町団地**

紙芝居屋さんが良く来ていた。当時の河原町小学校は1学年13クラスもあった。

**南河原公園**

- 40 噴水広場や、なかよし丸は、いいですね。
- 40 かくれんぼや缶けりをするのもってこいだった！
- 70 この近くにあった「ガラスの山」が学校帰りの遊び場だった。橋の川で七夕飾り流しもやった。
- 70 公園ができる以前の沼全体には、葦類が密集して生えていて、たくさんの動物・自然があった。

**女神神社**

- 20 夏は色んな町内のみこしが集まる！
- 60 夜店などが賑やかだった。

**明治製菓(現存せず)**

チョコレートのおいがした。

**砂利道の風景(現存せず)**

尻手黒川線西口通りは、ずっと砂利道だった。

**川崎駅**

**柳町公園**

公園に柱を立て、スクリーンとなる幕を張り、映画上映をしていた。

**東芝柳町工場(現存せず)**

工場の敷地内にあった鉄塔に、機銃の跡があった。

**プール道路**

未開通の地下道に、プールのように水がたまっていた。子どもたちの遊び場だった。

**南河原ハッピーロード**

今もやっているが、毎夏の「2のつく日」に夜店が出て楽しかった。

## 後世に語り継ぐ戦争の記憶

太平洋戦争が始まり、川崎でも昭和19(1944)年の終わりころから空襲が激しくなり、兵器工場や鉄道を中心に爆弾攻撃を受けました。そして、昭和20(1945)年4月15日の夜に起こった川崎大空襲では多くの命が失われました。

平和の大切さを未来に伝えていくために、戦争のころの記憶を語り継ぐことは大切なことかもしれません。

### 一面の火の海の中を逃げました

軽部 さん (終戦当時14歳・御幸地区 塚越)

当時も今も塚越に住んでいます。川崎大空襲の日は、南の方面(方角)が燃えていると聞き、家の裏の神社の本殿が建つ2~3m位の小山に登って見ました。すると今度は自分の家にごい勢いで親子焼夷弾(複数の焼夷弾を集束して落とす爆弾)が降ってきて、火柱が上がりました。庭の防空壕ではなく神社にいたから助かりました。

家の周りの竹やぶが燃えだしたので、お婆さんを連れて、座布団1枚を持って、その小山に逃げました。山の上では神社が燃えていて、辺り一面火の海でした。油が燃えた炎と、火の粉、熱風が一体となり、熱くて熱くてたまりませんでした。

多摩川の河川敷に逃げようと思ったのですが、道では家が燃えて、それが電信柱の真ん中に燃え移り、折れてしまい、道を塞いでしまうし、電線が何本も垂れ下がり、危険な状態になっていました。それを遠回りして、やっとくぐり抜け、今の塚越の郵便局の所に行ったら、そこでもすごい勢いで爆弾が落ちてきました。もうダメだと思いましたが、突っ伏していると、爆発しませんでした。

逃げる場所も無く、多摩川の河川敷まで行けず、古川小学校のそばまで行って、朝を迎えました。

### 布団をかぶり、操車場まで逃げました

橋本 さん (終戦当時13歳・南河原地区 中幸町)

今の南河原中学校(当時は幸町小学校)の近くに住んでいました。母は疎開中でしたが、父がいたことと、私は女学校に入っていて強制疎開の対象ではなかったため残っていました。川崎大空襲の日、父は仕事で出かけていました。空襲が始まると、「防空壕の中にも一撃をあびたら危ない」と言う人がいたので、今でいう南部市場、ロータリーのあった場所に行きました。その後、「道路は上空から見ると光って見えるからすぐに分かって危ない」と言う大人がいたので、大人と一緒にバケツを持ち、布団をかぶって引きずりながら矢向の方向に逃げました。逃げている最中に照明弾のようなものが落ちて周りが明るくなり、怖い思いをしたことを覚えています。

操車場の所が土手ようになっていて、踏切の手前の土手の辺りまで逃げました。家のある辺りが真っ赤に燃えているのが見えたのですが、大人たちはみんな、「あれは自分の家ではない、東京で燃えている火だ」と言っていました。自分のところが焼けているはずがないと思いたったのかもしれませんが。朝になり、みんなで戻ると、ロータリーのところで多くの方が亡くなっていました。倒れた電柱の電線に引っ掛かって亡くなっている方もいて、申し訳ないと思いがちながらもまたぐようにして通りました。南河原小学校は焼けていないので、おにぎりを配るという伝達があり、小学校に行きました。そこで、父に会うことができ、その日のうちに、田舎に逃げました。川崎駅が全滅で電車が出なかったため鶴見まで歩き、やっと電車に乗りました。

## 未来に残したいこと 若い世代に伝えたいこと

幸区が誕生して40年、この間もさまざまな変化があったことが分かりました。先輩方の話を聞いて、若い世代の方たちは驚く場面もありました。

ここでは、そんな変貌を遂げる中、未来に残したいこと・後世に伝えていきたい思いをお聞きしました。寄せられた意見の一部をご紹介します。

小学校の見守り隊をはじめとする地域の助け合いの仕組みや、人と近所のふれあいを伝えていきたいです。自分たちの世代のことを伝え、年上の方からは知識を学び、年下には優しさやマナーを伝えていくような、世代を超えた交流が大切ですね。



30代

夢見ヶ崎動物公園は、動物園があるし、歴史もあり、自然も豊かな場所なので、これからも大切にしていきたいです。みなさんのお話を聞いて、幸区への愛着がぐっと深まりました。同じ若い世代にも伝えていきたいな。



20代

幸区は公園がたくさんありますが、緑は少なく、夏歩いていても木陰が少ないと感じます。木陰があって子どもが気持ち良く遊べるような緑豊かなまちになってほしいですね。



40代

幸区の資源として、評価の高かった「多摩川」や「加瀬山」を、今後も大切に育み、幸区の特徴やイメージづくりに生かしていくことが大切になるのかなと感じました。そして「これが幸区だ!」と胸をはって言えるまちにしていきたいと思います。



50代

加瀬山の古墳群や、赤穂浪士ゆかりの祇名寺など、地域の歴史や、歴史を伝えるものを残していくべきだと感じています。それから、延命寺の戦災供養碑など戦争の悲惨な記憶を残して、平和の大切さを伝えていきたいです。



70代以上

自分の若いころを思い出すと、地域行事があってもなかなか参加できない気がします。40代、50代と、年をとるにつれて少しずつ地域に関わりたいたいという思いが強くなってきたように思います。興味を持った時にはいつでも参加できるような、いつでも開かれたコミュニティであることが大事なのかもしれませんね。



60代

## ～このような方法で、世代別の意見を集めました～

### 【アンケート】(幸区制40周年に向けて)

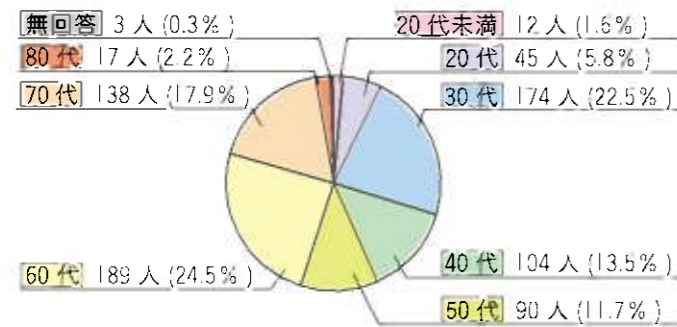
さまざまな機会で行い、延べ772人の方にご回答をいただきました。

- ①町内会・自治会へのアンケート  
(「幸区に寄せる“想い”調査アンケート」)
- ②幸市民館や幸図書館でのアンケート  
(「幸区に寄せる“想い”調査アンケート」)
- ③各種健診や教室などでの声かけ  
(「幸区に寄せる“想い”調査アンケート」)
- ④幸区区民会議委員による声かけ  
(「幸区に寄せる“想い”調査アンケート」)
- ⑤ふるさと編集委員による声かけ  
(「幸区に寄せる“想い”調査アンケート」)
- ⑥秋の動物園まつりでのアンケート  
(「幸区の意識調査アンケート」)
- ⑦幸区民祭でのアンケート  
(「幸区の意識調査アンケート」)



区民祭でのアンケートブースの様子

20代未満から80代までの、幅広い世代から回答をいただくことができました。



年代	計(人)	%
20代未満	12	1.6
20代	45	5.8
30代	174	22.5
40代	104	13.5
50代	90	11.7
60代	189	24.5
70代	138	17.9
80代	17	2.2
無回答	3	0.3
計	772	100

(小数点第2位を四捨五入)

### 【茶話会】(記念誌制作のための多世代意見交換会)

第3章「世代別に見たさいわい」を作成するために、秋の動物園まつり(9/19)と、幸区民祭(10/16)のアンケートブースでご協力いただいた方の中から参加者を募り、世代毎の意見をお聞きする茶話会(多世代意見交換会)を開催しました。

#### ①平成23年11月27日(日)



11名が参加しました。

#### ②平成23年11月30日(水)



7名が参加しました。

## 中学生にも勤労働員の指示が出て、工場に働きに行きました

梅田さん(終戦当時16歳・南河原地区 柳町)

「太平洋戦争」が始まった時、私は旧制県立川崎中学校の1年生でした。戦時中には中学生にも勤労働員の指示が出ていて、いくつかの工場に働きに行きました。3年生の時は、一定期間「池貝鉄工所」で働きました。午後3時になると雑炊が出されましたが、ご飯がとても少ないものだったので、友人は、「食べるものではなく飲むものじゃないの」と冗談を言っていたのを覚えています。4年生になると、通年勤労働員として「東京機器」へ行き、旧制横浜高等工業へ進学してからは大船の「富士飛行機」へ通いました。この勤労働員は、終戦まで続きました。

昭和20(1945)年4月15日の川崎大空襲の日、夜中から明け方にかけて、B-29による空襲がありました。焼夷弾の爆撃により、西の方から焼けてきた火が私の家の玄関まで迫ってきました。妊娠中の母がいたので、頭から水をかぶって必死に消火活動をしました。幸運なことに、焼夷弾の直撃は無かったので、家は焼け残りました。その一週間後の4月22日、焼け残った家で弟が生まれました。

## 加瀬山のスピーカーから連日のように空襲警報が鳴りました

成川さん(終戦当時14歳・日吉地区 東小倉)

戦時中、実兄はすでに兵隊に行っており、会うためには栃木の太田原に行かねばなりません。面会に行ったその帰り道、午後3時ごろに東京を通った時に、東京は前日の空襲の影響があり、まだまちが燃え続けていたのを覚えています。その兄は、後にフィリピンで戦死しました。

昭和20(1945)年5月29日の横浜大空襲は、昼間に起こりました。私は勤労働員で、溝ノ口の工場に行っていましたが、そこから歩いて家まで帰りました。燃え殻の紙などが、煙と一緒に川崎の方まで飛んできました。

戦争中は、加瀬山に設置されていた巨大なスピーカーから、連日のように空襲警報のサイレンが鳴っていました。昼間にB-29が飛んでくると、その晩は空襲がありました。昼間は調査に来ていたようです。昭和20(1945)年の7月ごろになると、航空母艦が近海まで来ていたため、艦載機が飛んできて、地上で動いているものに何度も機銃掃射を行いました。本当に恐ろしかったです。

## 横浜が燃える様子をみんなで呆然と見ていました

菅野さん(終戦当時13歳・日吉地区 鹿島田)

昭和20(1945)年4月、県立川崎中学校へ入学しました。校庭には爆弾の落ちた穴が7つあり、校庭に面した理科教室の窓ガラスはすべて破損していました。

それまで国民学校(現・小学校)で、3月まで疎開していた私たちには、いつ攻撃されたのかは知らないし、先生たちも語りませんでした。

4月15日の川崎大空襲で、鶴見・川崎地帯は焼け野原になりました。私は家を空襲で焼失して、寝る所も困窮しながら、両親の意思で中学校には通学しました。

5月29日は、学校にも空襲警報のサイレンが鳴りました。自分たちで作った校庭の防空壕に避難しましたが、西の方で爆裂音が響き、その後川崎には敵機が来なかったので、防空壕の上に乗って、横浜方面を見ました。空が黒くなり、地上は黒煙で覆われていました。それが横浜大空襲でした。